

玉川村での教えを胸に「前へ」

野口 庄太郎



私は生まれてから 18 年間玉川村で育った。小学生の時に黒板の上に目を遣ると「すなお」に「まじめ」に「がまん強く」やり遂げる子供と教育目標が書かれていた。中学生になってからも黒板の上に目を遣ると「自立」「剛健」「友愛」といった教育目標が書かれていた。こういったことを軸に玉川村での教育を受けた。

今 20 年間の人生を振り返ると厳しい受験生活では自分に対して「すなお」に「まじめ」に「がまん強く」あることの重要性を痛感した。

成人式の日にはお世話になった先生方、友人に再会し、友人の近況や思い出話に花を咲かせた。友人や恩師を大切にすることの重要性を改めて確認するとともに、ここでも「友愛」の精神の大切さを感じた。

そして二十歳になった今、更なる「剛健」な心身。経済的、精神的な「自立」が求められている。

これまでの人生で玉川村での教えが実際に活きた場面や自分自身を助けてくれたこともある。これからも高い壁や困難な問題に直面した時は、玉川村での教えをバネに乗り越えていきたい。

私は現在、東京で一人暮らしをしながら大学生活を送っている。大学では全国各地から集まった友人や先生から多くのことを吸収している。専攻は政治経済学だ。大学での学問や研究にも「まじめ」に取り組み、大学 4 年間で得た識見を玉川村での教えとともに大事にしながら今後の人生を歩んでいきたい。

最後に月並みな言葉になってしまうが、これまでの人生で私を支えてくれた多くの方に感謝したい。これからは自分が「自立」した大人になって誰かを支えられるような人間になりたい。